

## 第3章 「豊岡の宝もの」

### 第1節 豊岡市の歴史文化の特色

豊岡市は、海から山までがコンパクトにまとまるなかに、汽水域をはじめとした多様な環境が作り出されている。そして、そのような特徴を生み出す基盤となったのが、地質・地形である。例えば、雪雲のもとになる海と山や、円山川の下流にみられる地形とそこに生息する動植物、入り組んだ岩礁の海岸線が作り出す優れた藻場などがその代表といえる。そして、そのような地質や地形は、黒ボク層とスコリヤ層が育む神鍋の高原野菜や十戸の清水を利用したワサビ栽培、海に豊かなミネラルを供給して作り出される良好な漁場を利用した漁業の展開、鉱石を利用してきた鉱業や窯業、温泉や雪山を利用した観光産業など、人々の営みや産業の展開を支えてきた。

豊かな自然の恵みは、歴史にも大きな影響を及ぼしている。例えば、日本海をめぐる各地との交流は、アメノヒボコ神話の源となった。見晴らしの良い山の上には多くの城が築かれ、各地を結ぶ情報ネットワークとしても機能した。自然に畏敬の念を抱いた人々は、自然を信仰の対象とし、多くの祭礼・民俗行事を受け継いできた。

このように、本市の歴史文化の特色は、「豊かな“自然の恵み”のもとに繰り広げられる“人々の営み”が育む歴史文化」といえる。



玄武岩を利用した石積み（豊岡地域）



流紋岩の巨石を祀る（竹野地域）

写真39 “自然の恵み”をもとにした“人々の営み”

### 第2節 「豊岡の宝もの」とは

#### (1) 「豊岡の宝もの」の定義

本市には、さまざまな歴史文化遺産が残されている。中でも、本市の歴史文化の特色を物語る上で欠くことのできない重要な歴史文化遺産や、市民（地域）によって守り伝えられ、まちづくりのための「資源」として積極的に活用していくべき歴史文化遺産を、「豊岡の宝もの」と位置づける。

前節で整理したように、本市の歴史文化は、日本海・円山川や火山などの「自然の恵み」と、そ

の恵みを享受する市民と来訪者双方の「人々の営み」を基盤として作り出され、育み、受け継がれてきた。したがって、今に伝わる「豊岡の宝もの」は、人々の営みを作りだしてきた歴史資源、生活文化として現在に受け継がれる文化資源、それらを支えてきた自然の恵みによる自然資源の大きく3つに分類することができる。それらの3つの資源の定義とその特色は、次のように整理できる。

## (2) 「豊岡の宝もの」を構成する3つの資源

### 歴史文化の土台となった「自然資源」

自然資源とは、海・河川・火山などの地形・地質をはじめ、そこに生息する動植物などのうち、特に人々の暮らしと密接な関わりがみられる資源である。

3つの資源のうち、本市が国内外に誇ることができる強みは、自然資源である。それは、これまでコウノトリの野生復帰に市民をあげて取り組んできたことや、世界ジオパークやラムサール条約湿地への登録による世界的な価値が認められたことにより、多くの人々が自然資源の価値を認識してきた表れである。また、直接的には自然に含まれないものの、杞柳細工や城崎麦わら細工などの伝統産業、山や石をご神体とする神社、自然を活かした観光産業など、自然に関連する資源も多い。

このように、本市の歴史文化遺産は、大地の胎動に始まる豊かな自然環境を土台として繰り広げられてきた、人々の営みの積み重ねにより築き上げられてきたものである。

### 多くの地域との交流によって形成された、重層的な「歴史資源」

歴史資源とは、古墳・社寺・町並みなど、人々の手によって時代や地域の特色を反映しながら作り出された資源である。

市域で暮らしていた先人たちは、古来から海・山・川を通じて各地と交流してきた。日本海を通じた交流では、大陸との交易を背景にしてアミノヒボコ伝承が生まれたほか、北前船は多くの物資や情報をもたらした。水量が豊富で穏やかな円山川は、舟運を利用して但馬の南北を結び、城崎温泉への旅人などを運んだ。陸上交通では、国府・国分寺が置かれて地方行政の拠点となったほか、都（京都）に近いという立地もあり、京街道を通して参勤交代に向かう一行が江戸を目指した。

このように、時代や地域によって、交流先やその目的、そしてもたらされた文物は大きく異なる。例えば、江戸時代の竹野地域では、北前船を通じて各地の文物が集まり、但東地域では京街道を通じて京都の流行がいち早くもたらされた。異なる文化圏をもった地域の集合である本市は、重層的で奥深い歴史資源に満ちている。

### 人々の営みによって伝えられた「文化資源」

文化資源とは、祭り・行事・産業・食文化など、自然とともにある暮らしの中で生まれ、現代に受け継がれてきた文化的活動に関わる資源である。

市内には、おおむね各集落に神社があり、氏神として大切に祀られてきた。また、寺院ではなく集落の中で仏像を祀っている地区もみられる。各集落では、独自の伝統を受け継ぎ、冠婚葬祭や年中行事が執り行われてきた。

このように、本市には民俗・祭礼など、地域の人々によって守り伝えられてきた文化資源が多く残っている。これは、保存・継承が適切に行われてきた結果である。ただし、絶え間なく続く人々の営みだけでは、確実な保存・継承は行えない。そこには、本市域で暮らしていた先人たちの「歴史文化遺産を守り伝える」という意識の高さと、地域コミュニティの結束の強さが表れている。

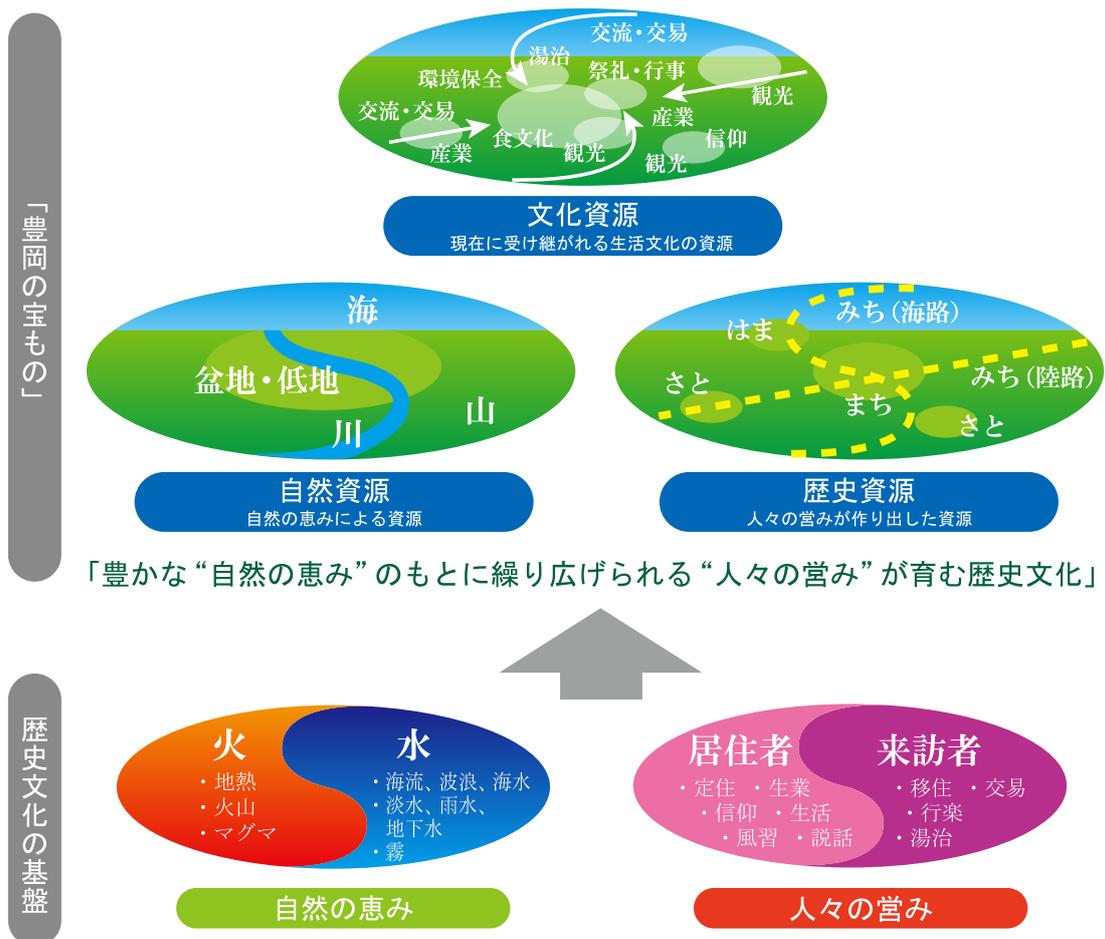


図 11 豊岡市の歴史文化の特色と「豊岡の宝もの」の関係

### 第3節 「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語

#### (1) 物語の位置づけと視点

「豊岡の宝もの」は、積極的に保存・活用すべき重要な歴史文化遺産であるが、単体で存在しているわけではなく、歴史・地域などさまざまな要素のなかで形成され、受け継がれてきたものである。したがって、「豊岡の宝もの」を一体的に保存・活用するためには、有形・無形、指定・未指定にかかわらず、歴史的・地域的な関連性（物語）にもとづき一定のまとまりとして捉えることが重要である。そこで、歴史文化遺産を活かしたまちづくりを戦略的に進めるまとまりとして、「豊岡の宝もの」を相互の関連をもとに織りなし、「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語」として捉えることとする。

「豊岡の宝もの」を紡ぐ物語は、①歴史文化の基盤となる自然を活かす、②地域の視点を活かすという2つの視点に基づき、7つの物語とした。この物語は、地域への誇りを育むとともに、地域に受け継がれる伝統や文化の価値の再認識を促すためにも活用していく。

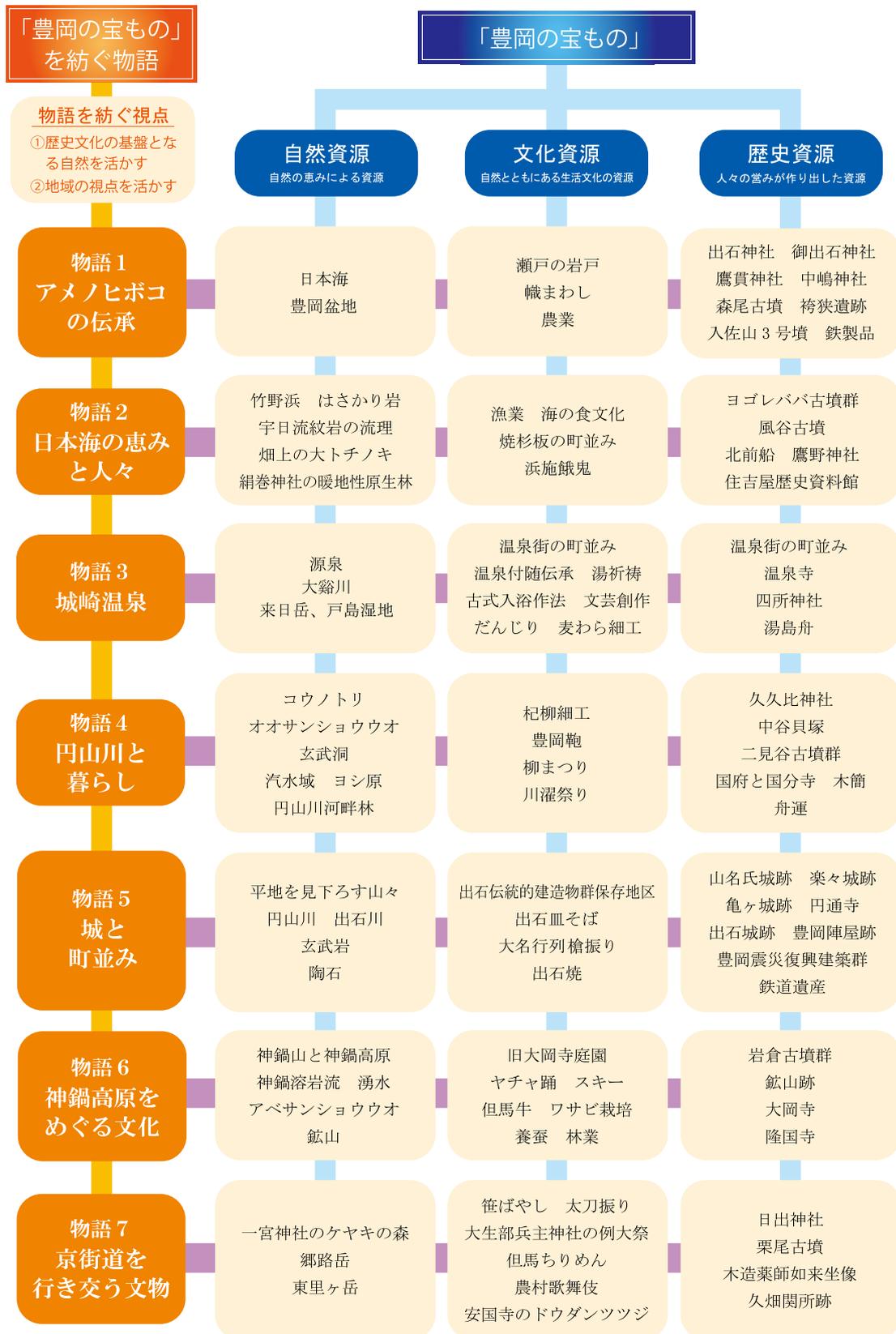


図12 「豊岡の宝もの」を紡ぐ7つの物語と各資源の代表例